

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～タスク活動の工夫を通して～

I 研究主題の設定理由

本研究会では、毎年、研究会で学んだことを授業で生かせるように、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行っている。

本年度は、研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～タスク活動の工夫を通して～」とし、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年度まで取り組んできたことを継続して研究していくこととした。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語の「教育課程特例校」の指定を受けた小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」を含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも、新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。小中連携についても、小学校の英語の授業を参観したり、中学校の教員が小学校に出向き英語の授業を行ったりしているが、そこからさらにどのような連携ができるのか、今年度は学びを深めていきたい。

私たちは、小学校における外国語活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地を児童に、また、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことができるなどの「コミュニケーション能力」を生徒に身につけさせなければならない。このようなコミュニケーション能力の素地やコミュニケーション能力を身につけさせていくためには、児童や生徒自身の学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが最も重要であると考え。そのためには、学習したことが、どのように自分の生活に役立つのか、どの場面で使うのかなど、児童・生徒の生活と結びつくことで、より学習に対して意欲的に取り組むことができると考える。そこで、既習事項を活用しながら、児童・生徒により身近で、実際の生活と関連性のあるタスク活動を仕組んでいくことで、児童・生徒が学習内容を身近に感じたり、学習に対して必要性を感じたりして、児童・生徒の英語学習への意欲を高められるだろうと考え、本テーマを設定した。昨年度は、「わかる授業・楽しい授業」をサブテーマに取り組んだが、今年度は、昨年度のものをより具体的にして「わかる」につなげるために、タスク活動について、学びを深め授業に役立てていきたい。

II 研究の具体的な進め方

1 「タスク活動」について学ぶ。

- ・タスクに基づく英語指導について、講師を招聘して学んだ。
- ・タスクの具体例を学び、授業実践に生かした。

2 小学校、中学校部会に分かれて、具体的な活動を検討する。

- ・小学校部会では、指導案の検討を中心に行った。
- ・中学校部会では、学年ごとに具体的なタスク活動を検討・実践・検証をした。

3 研究主題を意識した研究授業と研究協議

8月30日 授業者 廣瀬 剛教諭（山梨北中学校）

2月 7日 授業者 小池 美樹教諭（笛川小学校）

研究授業では、サブテーマであるタスク活動が仕組まれており、それぞれの発達段階に応じた工夫が見られた。タスク活動後のフィードバックの仕方にも工夫が必要で、難しさも感じた。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

今年度は、本研究主題の継続研究3年目で、昨年度のサブテーマ「わかる授業・楽しい授業」を、より具体的に「わかる」につなげるために、「タスク活動」について学んだ。また今年度は、講師を2回招聘し、1回目はサブテーマにある「タスク活動」について、2回目は「小中連携について」学びを深めることができた。タスク活動については、タスク活動とアクティビティーとの違いや、タスク活動後のフィードバックの大切さ、具体的なタスクに基づく指導などを学び、その後の研究授業では、生徒が意欲的に取り組めるようなタスクの工夫に力を入れた。

研究授業の後、これまでの学習を踏まえ、学年ごとに分かれ、具体的な活動を検討し、部員がそれぞれタスク活動を通して、学習意欲を高める活動の実践を行い、その成果や課題などを部会で発表し、研究討議を行った。研究授業を通して、タスク活動を行うことで生徒のコミュニケーション活動が増え、自分たちで意欲的に会話を使用する態度が見られた。タスク活動にもっていくまでの、授業の雰囲気や使用場面をしっかりと設定することが、より効果的なタスク活動になることも認識できた。

本年度も小中連携を意識した活動に取り組んだ。年2回の統一授業研究では必ず小学校と中学校の授業を参観している。研究会では、小学校外国語活動の授業の様子や、具体的な活動について情報交換をした。今後も、お互いの授業を参観するだけにとどまらず、お互いの実践を共有し合ったり、活用し合ったりすることで、小学校から中学校への繋ぎをスムーズにしていきたい。また、小中連携を念頭に置き、お互いの実践を授業で活用する機会をより多く作り、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。

2 課題

タスク活動について理論研修をしたり、実践例を学んだりできたが、その後の学年別の話し合いの回数が少なかったため、研究の中身を深めるところまではできなかった。発達段階の違いから仕方がないが、小学校と中学校でタスクに対する認識に違いがあったり、部員1人1人、タスク活動のとらえ方が異なっていたり、タスク活動の研究について、まだ足りない部分がある。タスク活動をしていく中で、どこまで教師が入っていったら良いか、また教師先導になりやすくなってしまふ部分をどうしていくのかなど、今後も学んでいきたい。 (部長 山梨北中学校 利根川紫野)